鳥取県の地震

２０２６年（令和８年）１０月
鳥 取 地 方 気 象 台

目　　次

（１） 鳥取県とその周辺の地震活動
震央分布図及び断面図、概況 …… 1
震源リスト（M2.0 以上） …… 1
（２） 鳥取県内で震度１以上を観測した地震
震度のリスト …… 2
震度分布図 …… 3
（３） 地震・津波の知識
昭和南海地震(1946 年 12 月 21 日)から 80 年～その１～ … 4

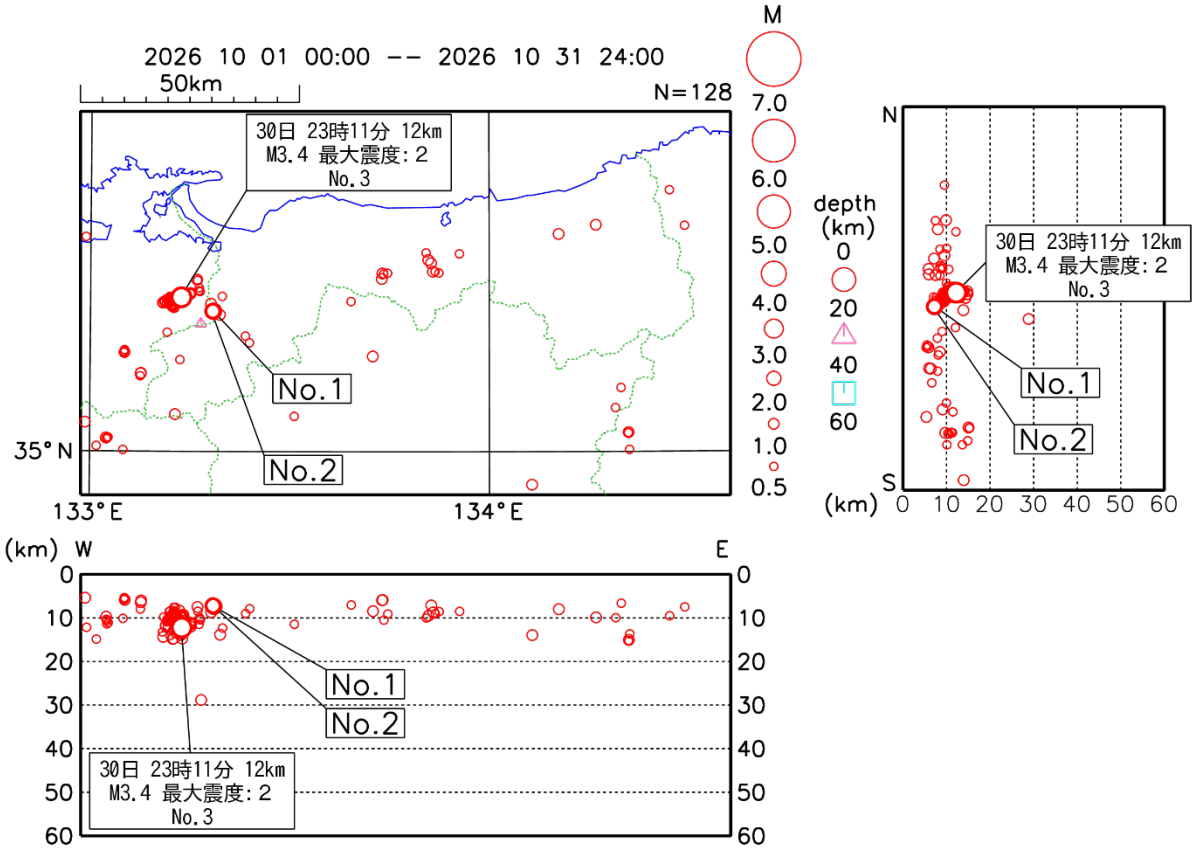
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。
また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

・本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがあります。

＊　広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。
大阪管内地震活動図ＵＲＬ　https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos_monthly.html

（１）鳥取県とその周辺の地震活動

［震央分布図・断面図］



［概　況］

2026 年 10 月に鳥取県内の震度観測点で震度１以上を観測した地震は１回（前月も１回）でした。

30 日 23 時 11 分 島根県東部の地震（深さ 12km、M3.4）により、米子市・南部町、島根県安来市で震度２を観測したほか、鳥取県、島根県、広島県で震度１を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0 以上の地震は３回（前月は９回）でした（番号は震源リストに対応）。

［震源リスト（震央分布図内のM2.0 以上の震源リスト）］

No.	発震時（年 月 日 時 分）	震央地名	北緯	東経	深さ（km）	マグニチュード	最大震度
1	2026 年 10 月 05 日 20 時 02 分	島根県東部	35° 17.3’N	133° 18.5’E	7	2.2	—
2	2026 年 10 月 06 日 00 時 21 分	島根県東部	35° 17.3’N	133° 18.4’E	7	2.0	—
3	2026 年 10 月 30 日 23 時 11 分	島根県東部	35° 19.0’N	133° 13.6’E	12	3.4	2

（２）鳥取県内で震度１以上を観測した地震

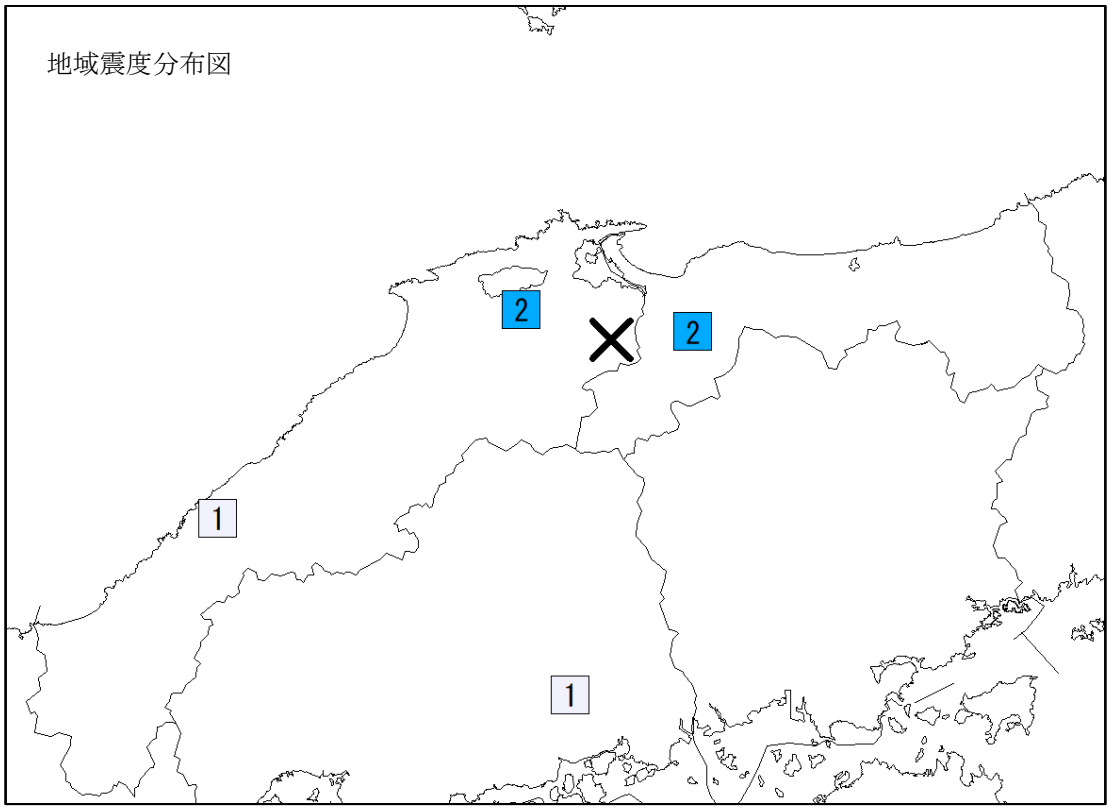
［鳥取県内で震度１以上を観測した地震及び震度のリスト］

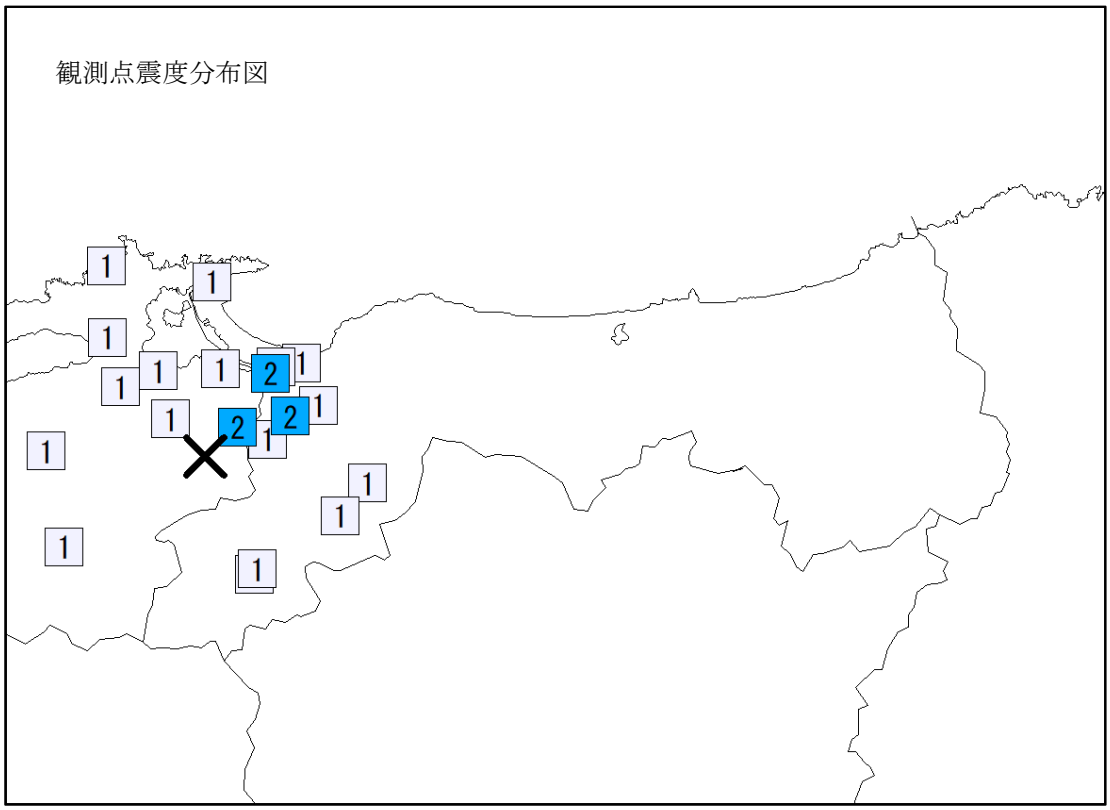
発震時（年 月 日 時 分）	震央地名	北緯	東経	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2026年10月30日23時11分	島根県東部	35°19.0’N	133°13.6’E	12km	M3.4
---------- 地点震度 ----------					
鳥取県	震度 2 ： 米子市東町＊,鳥取南部町天萬＊				
	震度 1 ： 米子市博労町,境港市東本町,日吉津村日吉津＊,日南町生山＊,日南町霞＊				
	鳥取日野町根雨＊,江府町上之段広場＊,鳥取南部町法勝寺＊,伯耆町吉長＊				

・＊印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

［鳥取県内で震度１以上を観測した地震の震度分布図（図中×は震央）］

2026 年 10 月 30 日 23 時 11 分　　島根県東部





（３）地震・津波の知識

昭和南海地震(1946 年 12 月 21 日)から 80 年～その１～

近畿地方や四国地方を中心に甚大な被害をもたらした 1946 年 12 月 21 日 04 時 19 分、和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード 8.0 のプレート境界型地震（以下、「昭和南海地震」という。）の発生から今年（2026 年）で 80 年の節目となります。今月号では昭和南海地震について振り返ります。来月号では南海トラフ地震臨時情報について解説します。

＜1946 年 12 月 21 日「昭和南海地震」について＞

昭和南海地震の発生により、北海道から九州地方にかけて震度５～１（当時の震度階級）を観測しました（図１）。

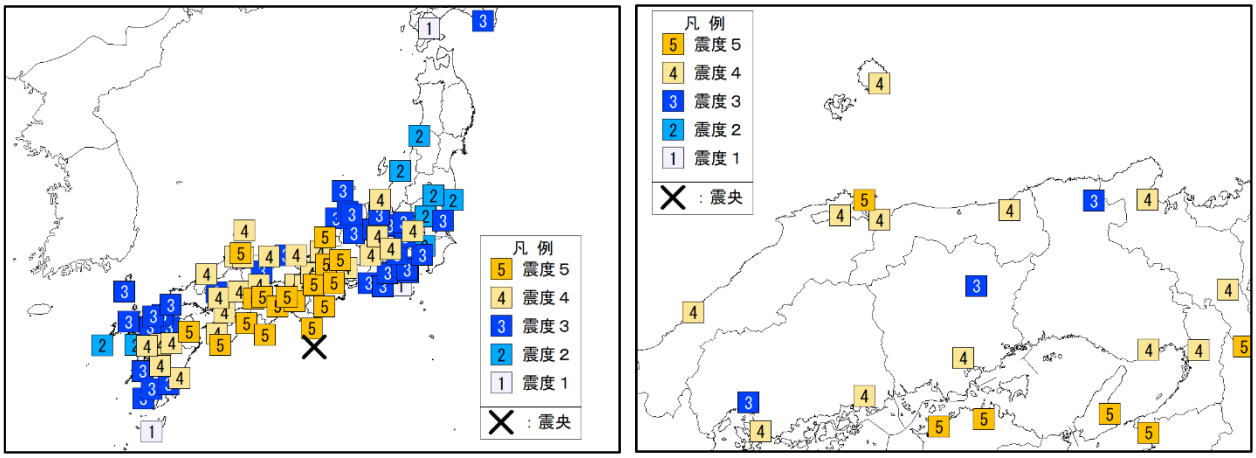


図１ 観測点震度分布図（左：全国、右：鳥取県中心に拡大）

また、千葉県の房総半島から九州地方の沿岸を津波が襲い、津波の高さは紀伊半島の南端にある和歌山県の袋で 6.6m、三重県、徳島県、高知県の沿岸で４～６ｍに達しました（図２）。

この地震により全国では、死者 1,330 人、住家全壊 9,070 棟、家屋流失 1,451 棟などの甚大な被害が生じ、その多くは津波によるものでした。瀬戸内海沿岸にも津波が襲来しましたが集落への浸水は免れたとされており、中国地方への顕著な被害の記録は残っていません。

しかし、岡山県を中心に地震の揺れによる被害が大きく、中国地方全体として死者 62 人、負傷者 209 人、住家全壊 584 棟、住家半壊 2,172 棟、道路損壊 42 箇所などの被害が生じました。鳥取県でも死者２人、負傷者３人、住家全壊 16 棟、住家半壊８棟などの被害がありました。（被害は「日本被害地震総覧 599-2012」による）

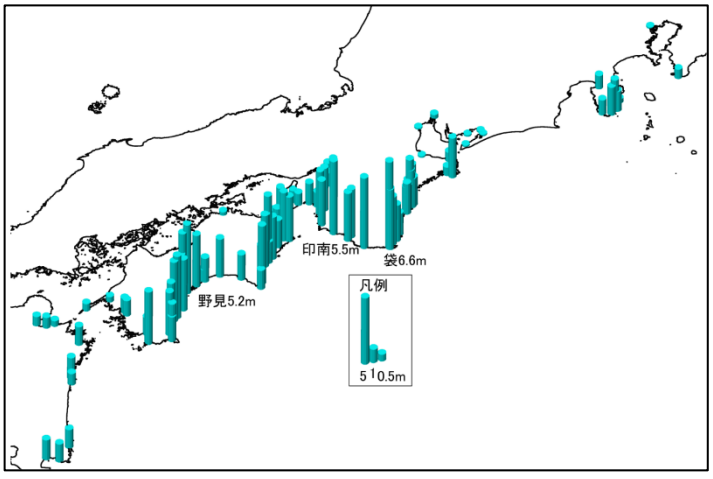


図２ 津波の高さ
（地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」より）




津波による被害写真（徳島県）（徳島地方気象台ホームページより）






揺れによる被害写真（岡山県）（岡山地方気象台ホームページより）

昭和南海地震の発生から80年が経過しようとしており、次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。過去の地震を振り返り、災害から得た教訓を学ぶことにより、突発的に発生する地震に備えておくことが重要です。

参考：各気象台ホームページの昭和南海地震関連ページ
（昭和南海地震のページ～切迫する次の南海トラフ地震～）
・高知地方気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/kochi/showanankaijishin/nankaijishin.html
（昭和南海地震の記録）
・岡山地方気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/okayama/jishin/showanankai.html
・徳島地方気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/tokushima/shosai/nankai/nankaitop.html
（南海トラフ地震について）
・気象庁ホームページ：https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/index.html
（南海トラフ地震特設ページ）
・大阪管区気象台ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和８年 10 月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

ＵＲＬ　https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/

問い合わせ先：鳥取地方気象台
TEL：０８５７－２９－１３１３